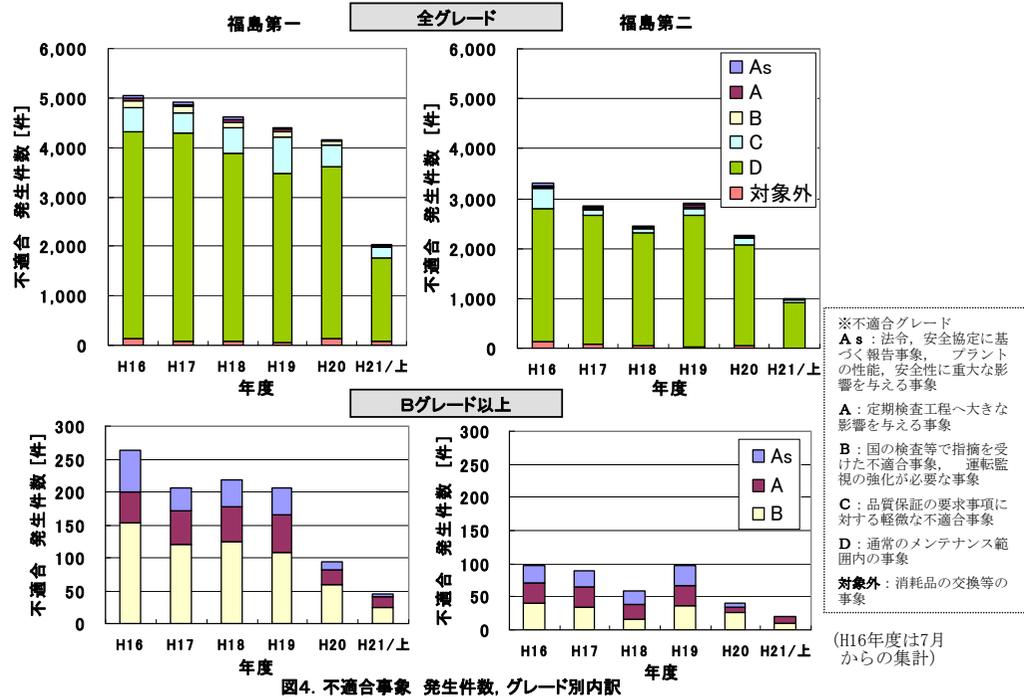


2. 不適合事象及びヒューマンエラー（HE）について

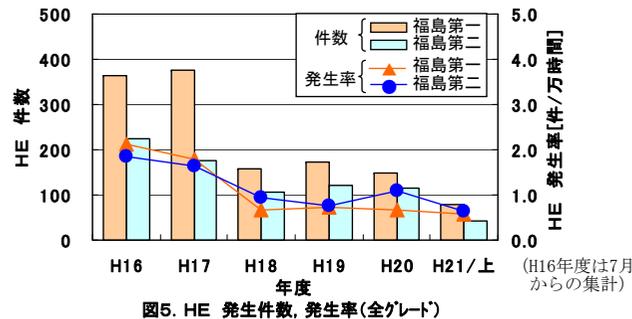
■ 不適合事象の発生件数，グレード別内訳

- 定検作業量による変動はあるが，両発電所とも経年でみると不適合発生件数は減少傾向にある。
- 不適合グレード内訳では，Dグレード（通常のメンテナンス範囲内の事象）が圧倒的に多い。
- Bグレード以上の不適合発生件数も，全グレードと同様に減少傾向にある。



■ HEの発生件数，発生率

- HEの原因分析・対策検討及び再発防止策の実施によりHE総数は減少している。
- HE件数は，福島第一が多いが，HE発生率は両発電所とも同程度である。
- プラント数(業務量)の違いがHE件数の差異の主要因と分析。



3. 協力企業との連携について

■ 協力企業従業員に対する研修・教育

- 当社は発電所員への教育に加えて，協力企業従業員に対する教育訓練を支援
- 技術の伝承のための取り組みや新人教育にも注力

当社社員	協力企業従業員
【社内の取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・保安教育 ・マニュアル教育 ・実務研修 など <p>＜技術伝承のための取り組み，新人教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン社員による若手社員への現場での直接指導 ・行動観察（マネジメントオブザーベーション）からのフォロー ・過去のトラブル事例による教育 	【当社による支援】 <ul style="list-style-type: none"> ・訓練用施設の活用（「失敗に学ぶ教室」を含む） ・当社社員向け研修への協力企業の参加 ・作業班長向け品質安全研修（H18・19年度），など 【福島原子力企業協議会※を活用した取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・作業班長研修 ・放射線防護教育 ・定検保修技能教育，など 【各協力企業の取組み】 （技術力向上・技術継承のための取り組みの例） <ul style="list-style-type: none"> ・発電所設備知識教育 ・技能訓練等の実務研修
【福島原子力企業協議会※を活用した取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・放射線防護教育，など 	
(※) 福島原子力企業協議会 定検・保修工事，委託業務等に携わる元請企業とその協力会社の全ておよび東京電力を会員とする団体。会員企業に共通する技能訓練・教育等を行っている。	

■ 協力企業とのコミュニケーション活動

- 協力企業の隅々まで品質保証活動の徹底と安全意識の浸透を図るため，様々な機会を通じ，職種に応じ多層的・多面的にコミュニケーション活動を実施

名称	頻度	概要
パフォーマンスレビュー会議	1回/月	発電所の安全や信頼にかかわる指標を分析・評価する会議に協力企業も参加し，発電所の運営課題を共有
TPM活動	随時	当社社員と協力企業社員によるTPM活動（全員参加による「災害・不良・故障のゼロ化」と「効率化」をめざした，人と設備の体質を改善する活動）を実施
工事事前検討会	随時	工事着工前に協力企業が実施する作業員全員による工事事前検討会に当社社員も参加し，安全・品質等について指導・助言を実施
TBM/KY	随時	協力企業が毎朝実施するTBM/KY（作業開始前の打合せ/危険予知活動）に当社社員も参加し，安全・品質等について指導・助言を実施
作業環境改善	随時	当社監理員が，日常の工事監理や打ち合わせ等の業務の中で，協力企業の方々とのコミュニケーションを図り，改善提案を積極的に収集
定検反省会	定期検査終了時	定検毎に今定検の不適合等及び次回定検時に実施するメニューについて協力企業と打ち合わせを実施
安全推進協議会定例会	1回/月	安全に関する相互協力のための連絡・協議を行い，災害防止，保安管理対策等に万全を期する
情報交換会（福島第一）	2回/年	協力企業（二次，三次企業）への情報提供と意見交換
保全部長と各企業作業班長との懇談会（福島第二）	1回/定期検査	定検工事の現場保全作業に係わる作業班長から直接意見を頂き，要望事項を改善活動につなげる

4. 「言い出す仕組み」の対策について

■ 「言い出す仕組み」の対策

- 当社は、平成18年11月以降明らかになった「発電設備に係るデータ改ざんや手続き不備等の不適切事案」に対する再発防止対策として、平成14年度以降取り組んできた「しない風土」と「させない仕組み」を充実・徹底させるとともに、「言い出す仕組み」の構築することとした。
- 何でも言え問題を抱え込まなくても良い職場作りを目的に、基本的行動規範の策定・不適合管理の仕組みの改善など、10項目の対策に取り組んできた。

■ 意見・要望・相談を受け止め対応する仕組み

(1) 日常的なコミュニケーション活動

- 協力企業の皆さまからの意見・要望等については、前頁に示すような日常的なコミュニケーション活動の中で受け止めている。

(2) エコー委員会・パートナーシップ委員会

- 原子力発電所で働く人からの意見・要望等が寄せられる窓口（エコー委員会（福島第一）・パートナーシップ委員会（福島第二））を開設
- 働きやすい職場環境を作ることを目的に、いただいた意見・要望に対する改善策を審議し、審議結果を回答するとともに、改善策の実施状況についてもフォロー



(3) 東京電力企業倫理相談窓口

- 東京電力グループの仕事に関する企業倫理上問題となる全ての相談に対応する「東京電力企業倫理相談窓口」を開設（社外弁護士ラインも併設）
- 公表している「原子力発電所施設関連」の相談件数は、平成19・20年度と0件となっているが、「原子力発電所施設関連以外」の相談は、継続的に寄せられており、相談窓口は適切に機能している。
 - ◆ 相談件数は、全体で年間200件前後
 - ◆ 原子力発電所からも各種の相談が寄せられている
 - ◆ 服務・勤務態度、職場のコミュニケーションに関する相談が比較的多い
- 発電設備に係る再発防止対策の一環（言い出す仕組みの対策）として、「相談窓口の再周知」を継続実施中（平成19年5月～）



まとめ

- 当社は、平成14年8月に公表した「原子力発電所における点検・補修作業に係る不祥事」及び平成18年11月以降明らかになった「発電設備に係るデータ改ざんや手続き不備等の不適切事案」に対する再発防止対策に、本店・発電所一体となって取り組んで参りました。
- また、平成17年6月29日に受領した「今後の原子力発電所の安全確保にかかる取組みについて」及び平成19年6月11日に福島県及び立地4町より要請を受けました再発防止対策に関する重点項目7項目につきましても、本店・発電所一体となって取り組んで参りました。
- 経営トップの原子力安全に係る関与について、その役割と責任をより明確にするため、平成16年5月に保安規定を改定し、社長の役割と責任を定めました。社長は、組織から必要な報告を受け、指示をしています。
- 上記に加え、経営層による安全確保に向けた活動にも取り組んでいます。主な活動は以下のとおりです。
 - 平成14年に、点検補修作業に関する不適切な取り扱いや不正行為の再発防止のため、「原子力安全・品質保証会議」を設置。社長、原子力関係役員および社外委員が、再発防止のため取り組むべき課題等を議論し、提言を採択（平成20～21年度上期に3回開催）
 - 協力企業も参加する発電所の安全や信頼にかかわる指標を分析・評価する会議（パフォーマンスレビュー会議・月1回開催）に経営層が参加し、発電所の運営課題の共有、改善策の検討及び実施を確認
 - 当社が「原子力発電所における点検・補修作業に係る不祥事」を公表した8月29日を「再生の日」と定め、毎年、社外の方をお招きして意見交換等を行い、なお一層の信頼回復に向けた活動を確保するイベントを経営層が出席して開催
 - 原子力安全・品質向上のため、原子力・立地本部長（副社長）を主査とする「原子力再生・発電所長会議」を年間6回以上開催（平成20～21年度上期に7回開催）
 - 協力企業の経営層の参加を求め、安全最優先・企業倫理遵守の価値観の共有などの目的で原子力・立地本部長（副社長）を主査とする「原子力安全・品質検討会」を年2回以上開催（平成20～21年度上期に3回開催）
 - 社長を含む経営層が発電所の協力企業を訪問し、所長、課長、班長などとの懇談・意見交換を実施（平成15年～21年度上期に福島第一32回、福島第二31回実施）
- 協力企業との様々な機会を通じたコミュニケーション活動により、協力企業と一体となって安全意識の浸透や品質保証活動の徹底にも取り組んで参りましたが、今後も継続して参ります。
- 平成20年度以降においては、福島第一1号機タービンバイパス弁駆動機構連結部の外れ・福島第一／福島第二における屋外空調ダクト接続部等の漏えい・福島第二4号機原子炉再循環ポンプ停止などの事象が発生していますが、これらも含めた不適合事象については、不適合管理の仕組みの中で原因究明を行い、得られた教訓（上記事例では、経年劣化対策の強化・現場作業環境改善の必要性など）を活用して再発防止や水平展開を図るとともに、更なる不適合管理の仕組みの継続的改善を行い、なお一層の安全確保に向けて取り組んで参ります。
- 今後も、地域・社会の視点に立ち、企業倫理・法令遵守、安全確保・品質管理の徹底、情報公開による透明性の確保等に取り組んでいくとともに、継続的な改善活動を行い、世界最高水準の安全性と品質レベルを有する、信頼される原子力発電所を目指して参ります。